

186
1
17

遊行上人示翰之鴻

150 cm

SEKISUI JUSHI

186
一
1



佛菩薩をまく念す。猶有と存す。
餘念を絶す。則其心入定の法。念すハ獨の
人よき。獨よ一心弘性も應く。念すが達破
達事の事や却く。時ハ八聖凡達化と尼山
真和私別の公ハ獨よ一心弘性も
や。而山念す。獨よ一心弘性も。佛菩薩をまく
妄念無む。一筋よ無も。心念して。是る全
體ハアシム所似。すと。心の指。心の指。心の
十指。十指。心の指。心の指。心の指。

尤善善をしてこそあり能くた九種の庄農と
ノ事ハ人のも足れたよ眉耳鼻口のを元成
念かた九種已有りた九種の庄農トヒヤニ也
序大た九種の庄農人本の境界の上すれど
此九種の庄農トヒヤニ本ナリナホの御脚立農
ももくらひもく求羅ももつせんもくも農舍
もタヨハ一ひきの似性ハ食事ハ繁れを尋ね
者トシムリト乞故禪家よりかかと別はより
天台より水飯の序大己ひの深泥とよてかよ

仙林木立の梵文をも理もくアカハル体起ぐ
而事も立と云ふてえの理也黙也以
體起也此也取と云ト行(大氣有)要言山
形より善事ハ仙林とかくシテ能事とか
小字合す(ハ)は身外りはと八禁達事トよる
は(シ)の色空ハ吹きりりかとゲリ無念空
は財(シ)の色空ハ吹きりりかとゲリ無念空
は財(シ)の色空ハ吹きりりかとゲリ無念空
化儀ト缺事清淨好(シ)を堪能立す

山ノ上あると山あらめ見ますと、年月は既て
をも事じもよどむ事無く、向ふは一時
元へくうりは一時の善根がふたりましと
すむ一念も無るまじむと見えしゝ能ると

此後のことをへ、うなぞき

一師母の身へかゝて云孫院が東十劫三事の成
る西院の身、甲子年十八歳の秋始も花ちり立
ちんあゆみへ誕生れゆれより才十八歳
仙體まれり承ます方の命を西院淨

御主さんとちやうへおひたすらとひよ
十念とひよの誕生えりへうけいへかね
西院とひよたるの誕生お氣をすとひよて
皆仰ち（遠とくんと）原事そとする誕生
男一人いとくとまの竹（竹）、女一人は生
とかよ立野あとおませの女一人の夢る隠深
きよくゆきそりへゆ人のよきよる別名又
有りよ立野とへゆ上宿（雅）
ゆ人疑ひ有る女一人は生を立野に大

おのびよ立原タケハラのまじきわを寄りた立原タケハラ
事トコトコあ余念ムカシの法ハルマの事トコトコ小
家カミの法ハルマよせととけらトコトコかくそりま
乃ノむとてゆのうやく事トコトコひゆうせん全包ゼンバウ
ア事トコトコうち原タケハラにて痴チヤウもあふ小余ムカシの法
有リ人セズアリモト人死マツシテの生氣セイキの室ムロと
云クモレは煙スモークとゆく火ヒをもんゆす人壁ジンベイ
モの貌モードを立原タケハラアハ松風マツフウす人のすの落葉ハラハラ
ひと持モリて津ツ立原タケハラとおんじよの山

事トコトコひよ立原タケハラのまじきわを寄りた立原タケハラ
立原タケハラのとけら種トコトコの事トコトコ小
根ルハ實シタのよしよ立原タケハラの木兒キガもシタすと
物モノすがタ立原タケハラの木兒キガ也タ立原タケハラの木兒キガ也タ

南立原タケハラ院地仙

立原タケハラ化阿

重のゆゑに御意所向より入幕し侍が丸年
ウカタナヒトヒ

御足とも御泥浴にてお嬢の声をと候御座
おれ法事石遠と曰候るすすむにのひをと
おもへ西宮御とと後房より念仏の功より
て御院の御身おれ御方世尊金の蓮花より
一ふ御史院持御生と仰げれ十萬度
道幸とおもふ念仏禮をする所、御事よ

御坐する御廟へは御参りをされ
云狀而遠とおどり御仙院御よりか
手も念仏おまこえのうの御身おお
御院御身とおまこえの御身おお
手も御手とおまこえの御身おお
手も御手とおまこえの御身おお
手も御手とおまこえの御身おお
手も御手とおまこえの御身おお
手も御手とおまこえの御身おお
手も御手とおまこえの御身おお

大島は倭寇をしてとおゆふさへあやま
せばする倭寇をそぞろにかくとを
うれしく去此の遠の海からよむるを
老輩物の今く海のえね良辰と帝
景廟へりてそひ鶴の山の御心とおもひ方
トヨトヨトヨトヨトヨトヨトヨトヨトヨト
すととととととととととととととととと
とととととととととととととととととと
とととととととととととととととととと

ノ事のうづき

九州大學圖書印